認定NPO法人

JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2022 年度事業報告書

2023 年度事業計画書

2022年度 事業報告書
2023年度 事業計画書

CONTENTS

■ ごあいさつ 3

■ JHP の活動・歩み・理念 4-5

■ 学校建設（カンボジア） 6-7

■ 学校建設（ネパール） 8

■ 衛生教育（カンボジア） 9

■ 初等科芸術教育支援事業 10-11

■ 音楽・美術教育支援事業 12

■ CCH・アート・プロジェクト 13

■ 教育支援（幸せの子どもの家） 14

■ CCH メイクアップ基礎習得プログラム 15

■ 成人識字教育事業 16

■ 災害救援 復興支援 17

■ 広報活動 18-19

■ 組織運営 20-21

■ 2022 年度活動計算書 22

■ 2022 年度貸借対照表・監査報告書 23

■ 2022 年度事業計画 24-30

■ 2023 年度活動予算書 31

■ （裏表紙）JHP 行動基準 32

ごあいさつ　- JHP は 30 周年を迎えます -

日ごろ全国各地から寄せられる皆さまの温かいご支援に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

2022 年度も相変わらずのコロナ禍ではありましたが、
皆様方のご支援・ご協力により、カンボジアでの学校贈呈式やネパールでの 5 校の学校贈呈式開催を始めとした、現地での教育支援活動や、髙木凜々子チャリティーコンサート開催、３年振りとなるグローバルフェスタのリアル会場でのブース出展といった活動を行うことができました。

私どもは、1993 年 9 月の設立以来、皆様のご支援によりカンボジアに 367 棟、ネパールでも 19 棟の校舎を建設寄贈し、教育支援活動に取り組んで参りました。また、カンボジアの音楽や美術教育の発展に基本創りから取り組み、教科書や指導書づくりに大きく貢献をしています。また、第 4 期目を迎えた識字教育クラスはコロナ対策のルールに従い実施することができています。

2023 年度は当会設立 30 周年を迎えます。ここまで長きにわたって活動を続けられましたのも、支援者の皆様のおかげであります。JHP はこれからも「できることからはじめよう」をモットーに活動を続けてまいります。
今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

小山内美江子

＼30 周年の記念祝賀会を開催いたします！／

本年、JHP が創立３０周年を迎えるにあたり、それを記念する祝賀会を以下の要領で開催することにいたしました。多くの皆様にご来場いただければ幸いです。

日時：2023 年 10 月８日（日）　PM 12:00～14:00

場所：ホテルメルパルク横浜

（横浜マリンタワー隣
みなとみらい線「元町・中華街駅」より徒歩５分）

25 周年記念パーティーの様子

◇お問合せ◇
TEL：03-6435-0812
MAIL: tokyo-office@jhp.or.jp

JHP の活動・歩み

1990	イラクに入国できず、ヨルダンにて活動。	
1991	JHPの前身であるJIRACとして湾岸戦争後に取り残されたクルド難民の救援を学生達とイランで実施した。	
	小山内美江子と二谷英明らがカンボジア難民救援のため、タイ国境キャンプを視察し準備に入る。	
1992	タイ国境からのカンボジア帰還難民救援活動の中から、子どもたちのための学校建設の必要性を把握。	
1993	９月15日にJIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立。	
	カンボジア活動隊派遣開始（以降年2～3回を継続）。	（写真A）
1994	JEN設立に代表小山内が参画。駐在員1名をユーゴスラビアへ派遣。	
1995	阪神淡路大震災発生。当日から救援活動開始。	（写真B）
	カンボジアにプノンペン事務所設置。旧ユーゴスラビア隊を定期的に派遣。	
1996	音楽教育プロジェクト開始。カンボジアに音楽教師1名を派遣。	
	アフリカに毛布を送る運動の構成団体として学生の現地派遣開始。	
1997	4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。	
	地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)の構成団体となる。	
1998	カンボジア教育省とNGO活動の合意書を結ぶ。	（写真C）
1999	美術教育プロジェクト開始。日本人教師1名派遣。初の絵画展を開催。	
2000	10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記完了。	
	プノンペン市認定の音楽教師7名を誕生させる。	
2001	JENの構成団体としてインド地震救援隊4名派遣、テントなどを支援。	
	カンボジア王国と覚書を交わし正式なNGOに認められる。	
2002	ユニセフと合同でアフガニスタン支援実施。駐在員1名派遣。	
	JHP初の孤児院完成。CCH（幸せの子どもの家）支援開始。	（写真D）
2003	JHP初のラオス校舎完成、ボスニア活動隊4名派遣、100棟目の校舎完成。	
2004	１月１日に日本で19番目に国税局より認定NPO法人の認知を受けた。	
	新潟水害、中越地震の支援活動実施。	
2005	カンボジアにて第1回音楽コンテスト実施（以降年1回実施）。	
2006	JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金スタート。	
	小山内美江子　国際ボランティア・カレッジ開催。	
	代表小山内がカンボジア王国よりモニサラボン大十字勲章受章。	
2007	設立15周年記念祝賀会を開催。マーチングバンド、CCHの子どもが来日出演。	
2008	1人1万円の呼びかけで631人が賛同し、200棟記念校舎が完成。	
	代表小山内が第20回毎日国際交流賞を受賞。	
2009	国際ボランティア・カレッジが第3回浄土宗共生（ともいき）・地域文化大賞を受賞。	
	新たな支援対象国の候補としてネパール調査を実施。	
2010	アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008を実施。	
2011	東日本大震災発生（3月11日）。仙台市若林区、南三陸町にて支援活動を行う。	
	平成23年度外務大臣表彰を団体として受賞。	（写真E）
	JHP初となるネパールでの学校建設を開始する。	
2012	JHP創設者の一人で元副代表の二谷英明氏が1月7日に逝去する。	
	公益財団法人かめのり財団より、「第5回かめのり賞」の表彰を受ける。	
2013	JHP行動基準が制定される。（詳細は裏表紙を参照）	
	JHP初となるネパールでの校舎が2棟完成し、贈呈式を行う。	
	300棟記念校舎が完成。	（写真F）
2014	2月24日に東京都より認定NPO法人の認定を受けた。	
	設立20周年を祝う、記念の集いを開催。	
	教育支援事業の充実を目指した「ドレミとアート基金」設立。目標300万円を達成。	
2015	外務省日本NGO連携無償資金協力の助成事業に採択される。	
2016	熊本地震発生。益城町への継続支援を実施。（4月～）	
	JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国　初等科芸術教育支援事業」が開始される。（8月）	
2017	ASACカンボジアに学校を贈る会より識字教育事業を継承。2018年9月から教室開講。	
2018	JHP25周年記念祝賀会開催。	（写真G）
2020	公益財団法人社会貢献支援財団より、第54回社会貢献者の表彰を受ける。	
2023	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式会社より、『Panasonic NPO/NGO ｻﾎﾟｰﾄﾌｧﾝﾄﾞ for SDGs』の助成通知を受ける。	

JHPの理念

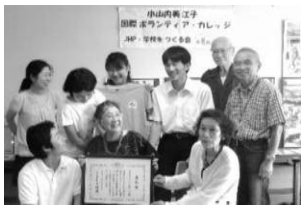
JHPは、戦争や自然災害で教育の機会を奪われた世界の子ども達に、人種、国籍、宗教、その他の信条の違いにかかわらず広く教育等の援助を行い、また紛争や自然災害による被災地・被災者への救援活動と、これらの活動を通じて次代を担う若者達への地球市民教育を実践することを目的とする認定NPO団体です。

（写真Ａ）カンボジア活動隊派遣開始

（写真Ｂ）阪神淡路大震災救援活動開始

（写真Ｃ）カンボジア教育省と合意書締結

（写真Ｄ）CCH 支援開始


（写真Ｅ）東日本大震災支援活動開始

（写真Ｆ）300 棟記念校舎完成

■設立経緯

代表の小山内美江子は、1990年の8月、イラクによるクウェートへの武力行使によって勃発した湾岸戦争に際し、ヨルダン難民キャンプに出向き、はじめての海外ボランティアを経験しました。湾岸戦争時、「顔の見えない日本人」と批難されたことが行動の原点であり、共に活動した大学生の日々の成長に小山内が感動したことが、後のカンボジアでの活動に繋がっています。

JHPの前身団体JIRAC（日本国際救援行動委員会）でカンボジア担当だった小山内美江子と故二谷英明（俳優、JHP元副代表）が、パリ和平協定調印後の1991年12月にタイ国境の難民キャンプを視察し、更に92年活動の調査のため、カンボジア入りしたあと、1992年7月から学生らと共にタイからの帰還難民の救援に汗を流しました。その時の活動を通じて、学校建設の必要性を痛感し、1993年9月15日に同JIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立しました。

1997年4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。2000年10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記を完了。2004年1月1日に国税庁より認定NPO法人の認定を受けました。

（写真Ｇ）JHP25 周年記念祝賀会

学校建設（カンボジア）

■建設支援リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者		主な支援内容							
			生徒数	教員数	校舎		トイレ		机/椅子	井戸 水タンク	手洗場	遊具
					棟	室	棟	室				
364	タナック中学校	バッタンバン州	283	9	1	4	1	3	4	1		
365	トップミエン小学校	コンポンスプー州	245	8	1	1			5			
366	オンクローン小学校	バッタンバン州	353	7	1	3			75		1	
367	トラッピャンドン小学校	トゥボーンクモム州	216	9	1	2	1	3	50		1	
付帯設備	ペッチョンワール小学校	バッタンバン州	100	4							1	
付帯設備	プレイパアオ小学校	バッタンバン州	123	3							1	
付帯設備	トゥールスノール小学校	バッタンバン州	142	4							1	
付帯設備	ポートム中・高等学校	スワイリン州	1622	62							2	
付帯設備	バイドムラン小学校	バッタンバン州	212	9						1		
付帯設備	バイドムラン中学校	バッタンバン州	467	28			2	8				
校舎補修	コンターナン小学校	コンポンチャム州	1513	21	(1)	(5)						
付帯設備	ロー小学校	コンポンチャム州	193	4					25		1	
付帯設備	プレイスノール小学校	プレイベン州	193	5							1	
付帯設備	コンポート小学校	コンポンチャム州	285	7							1	
2022年実績			5,947	180	4	10	4	14	159	2	10	0
368	ポチバラン小学校	プレイベン州	438	11	1	5						
369	チョーチュレイ小学校	クラチエ州	112	5	1	3						
370	オンクナー小学校	コンポンスプー州	497	10	1	3						

＊364 の机、椅子は日本からのリサイクル品を 160 セット寄贈。教師用 4 セットのみ現地購入
＊実績の（）内の数字は、既存施設の補修棟数と室数を示します。2022 年の実績には加算されません。
＊368-370 校目は 2022 年度内に未完成のため、実績は 2023 年度に加算されます。

オンクローン小学校　新校舎

ポチバラン小学校　建設中

タナック中学校　贈呈式の様子

トラッピャンドン小学校
贈呈式の様子

■支援概況

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき、主に

①教室数の不足度　　②校舎の老朽化や倒壊の危険性

③生徒数の増加程度　　④校舎以外の設備の必要度

をスタッフが直接確認し、優先度の高い学校から建設を行いました。

今年度はカンボジア 3 州に小学校 4 棟 10 室、校舎補修 1 棟 5 室、トイレ 4 棟 14 室、手洗い場 10 基を建設し、総受益者は生徒 5,947 名、教員 180 名の成果を得ました。

これにより、カンボジア国内での校舎建設数はカンボジア 20 州で 370 棟（着工済校舎を含む）、ラオス 1 棟とネパール 19 棟を加えた総実績は 390 棟となりました。

また、年間を通して学校調査を行い、今後の事業継続のための情報収集と支援者への提案を行いました。

■カンボジアにおける校舎建設の実績

2021～2022 年度の教育省統計によると、公立の小学校は 7,306 校、中学校 1,253 校、高校は 559 校で合計は 9,118 校となり、前年度より 14 校増えています。

その中で、JHP は支援校 296 校（約 3.2%）の支援に携わっています。

■カンボジアと日本間の交流

2022 年度は両国のコロナウイルス感染状況が落ち着きはじめ、日本の支援者の方々を招いた贈呈式を合計 2 回実施しました。

カンボジアでの現地の子ども達との交流含むボランティア活動は今年度中止といたしましたが、次年度は感染対策を行いつつ、ボランティア活動を再開することを予定しています。

プロジェクトの背景

国際機関やNGO等の援助により、カンボジアの教育環境は改善されつつあるが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大している。また、長く続いた内戦の影響により2023年現在第２次ベビーブームに入り、子どもの数が急増している。このことから都市部、地方含む各学校では慢性的な教室不足が続いており、生徒が過密な環境で学んでいたり、正規の時間数が学べなかったり等の弊害が出ている。就学率は年々改善されており、小学校の粗就学率は10割を超えているが、中学校6.5割、高校3.6割となり、他のASEAN諸国と比べ低い水準となっている。

■大切に使われている校舎、教室

（上）1996年建設校舎
　　どの教室も天井からカラフルな飾りが張られています
（右上）教室を散らかさないよう、外にあるごみ箱にゴミを捨てる生徒
（右下）きれいに掃除が行き届いた廊下

建設後の校舎の状態は、駐在員が定期的に確認しています。2023年2月に東京事務所の職員が、いくつかの学校を訪問して、校舎や教室の使用状況を確認しました。

教室内は照明が無い為に、明かりは窓からの自然光ですが、どの教室も天井から色とりどりの飾りが室内を明るくしています。校庭から続く廊下は大変きれいに清掃されており、訪問した学校の生徒達は、ゴミはすぐにゴミ箱に捨てる習慣がついていました。

■「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」との連携で中古机・椅子を寄贈

（左）タナック中学校　支援された机、椅子を教室に運び入れる生徒達
（右）バルチュロサクラ小学校　支援された机、椅子を教室に運び入れる生徒達

200セットのうち160セットをバッタンバン州のタナック中学校に、残り40セットをプノンペン都にあるクバルチュオイサクラ小学校に寄贈しました。

また、2023年度の寄贈に向け、関係者のみで椅子と机170セットを修繕し、楽器と寄贈ユニフォームの積み込みを行いました。

■インタビュー

訪問時に好きな教科や将来就きたい職業等に関して、子ども達にインタビューを実施しました。

学校名：タナウ小学校
名　前：スレイ・クイ
学　年：小学6年生(12歳)
好きな教科：国語
好きなスポーツ：なわとび
将来就きたい職業：ウェディングプランナー

学校名：プレイスノール小学校
名　前：タン・ラティー
学　年：小学６年生(12歳)
好きな教科：国語
好きなスポーツ：サッカー
将来就きたい職業：兵士

学校名：プレイスノール小学校
名　前：ルット・ニーター
学　年：５年生(9歳)
好きな教科：国語
好きなスポーツ：バドミントン
将来就きたい職業：教師

学校名：ロー小学校
名　　前：スルン・ユンナルン
学　年：小学6年生(13歳)
好きな教科：算数
兄弟：8人兄妹の末っ子
将来就きたい職業：建築家

学校名：オンクローン小学校
名　前：ウドン・ポー
学　年：小学５年生(12歳)
好きな教科：クメール語と算数
好きなスポーツ：特になし
将来就きたい職業：教師

学校名：オンクナー小学校
名　前：チャック・ビセット
学年：小学4年生（11歳）
好きな教科：クメール語
好きなスポーツ：サッカー
将来就きたい職業：警察官

学校建設（ネパール）

■ネパール校舎累計で 19 棟 80 教室完成

2011 年に始まったネパールに於ける学校校舎建設支援活動は 2022 年度末までに 19 棟、80 教室が完成しました。支援者の皆様のご協力に心から感謝いたします。この度、コロナ禍で延期されていた 5 校の学校贈呈式（アムリット校・バルスボディーニ校・ジャムンバディ校・サガルマータ校・ラックスミナラヤン校）を現地で開催することができました。式典参加のため、11 月 1～11 日の 11 日間にかけ、JHP スタッフと支援者様の総勢 15 名でネパールを訪問しました。校舎を寄贈していただきました支援者の皆様には、JHP スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

また、贈呈式と並行して、これまで建設した学校と建設候補校の調査を実施しました。ほとんどの調査校に共通してトイレの不足が課題として挙げられました。他には教室に設置されている扇風機の不足や乳幼児クラスの教室不足も明らかになりました。

今回の訪問を通して、良質な教育を提供するための環境づくり、すなわち学校建設や衛生施設の支援がどれほど重要であるかを改めて実感することができました。学校建設によって適切な場で学びが保証された子どもたちだけでなく、彼らの成長を支える教師や保護者、地域住民といった大人たちも恩恵を受けることができます。ネパールのコミュニティや学校管理者、学生、教師は、日本の贈呈者の皆様の寛大さと支援を高く評価し、この学校建設という素晴らしい仕事にご尽力いただいた方々に心から敬意と感謝の念を抱いています。

すし詰めの教室で勉強に励んでいる、ネパールの子どもたちの教育環境を少しでも改善するため、引き続き皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

アムリット校

バルスボディー二校

ジャムンバディ校

サガルマータ校

ネパール国旗を持って歓迎の
パフォーマンスを披露する子どもたち

支援者様の歓迎のために、校門前で
子どもたちが列を成して待っています

ラックスミナラヤン校

プロジェクトの背景

JHP の学校建設プロジェクトは、2011 年にネパール東南部に位置するジャパ県で開始されました。ジャパでは、学校はきちんと機能しているものの、校舎数が非常に不足し、子どもたちは教室の水準に達しない狭い部屋に押し込まれ、でこぼこな床、雨が降ると水漏れするトタン屋根、設備の不十分な教室で勉強していました。こうした状況を調査により把握後、JHP はネパールでの学校建設プログラムを開始させることを決定しました。支援の目的は、学校校舎を建設すること、特に僻地の村に学校を建設することでした。この支援により生活に困窮した貧しい農家の子どもたちがこれまでより良好な環境で教育を受けられるようになりました。

衛生教育（カンボジア）

■衛生環境を整え、安心、安全な学校生活を

2022 年度はトイレ 4 棟 14 室、給水タンク（10 ㎥)2 基、手洗い場 10 基を必要とされている小、中学校に設置し、各校の衛生環境の改善に取り組みました。

2021-2022 年度にカンボジア教育・青年・スポーツ省より発表された統計では、小学校で安全な水へアクセスできない学校はカンボジア全土では 57.5%あり、トイレがない学校は 22.5%との統計データがあります（＊1）

カンボジアの都市部は水が通っているため、蛇口を捻ると容易に安全な水にアクセスすることができますが、地方では水が通っている学校は少なく、水瓶に雨水を貯めたり、給水車を呼び貯水槽に水を貯めたり使用している学校が大多数を占めます。安全な水にアクセスができないと、腸チフス、下痢、脱水等にかかる可能性が高まり、医療環境が脆弱な地方では命を落とす危険性もあります。水は安心安全な学校生活をおくる上での基盤になり、将来的に彼らの生活水準の向上に寄与することに繋がります。

また、衛生環境を改善することは、持続可能な開発目標 SDGs のうち、目標 6【水・衛生】（すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する） の達成にも繋がります。しかしながら、カンボジア含む多くの途上国では道のりは遠く、各国政府の取り組みだけでは達成が困難です。皆様のご協力が達成に繋がる大きな一歩になります。

（＊1 Public Education Statistics & Indicators 2021-2022 issued by MOEYS）

新設された手洗い場
オンクローン小学校

新設されたトイレ　タナック中学校

新設された給水タンク(10 ㎥)

衛生指導をしている JHP スタッフ

衛生施設の寄贈等が有った時に、イラストが描かれたボードを見せながら、手洗いの大切さなどを教えます。

新しい水道で手洗いをする生徒

パネル

衛生指導では、パネルを使用して、
「ゴミは校庭に捨てずにゴミ箱に捨てましょう！」
「外ではなくトイレを使うことを習慣にしましょう！」
と生徒達に伝えています。

バイドムラン小学校の校長先生の声

名前：ダイ・マニン先生

新しい給水タンクを設置していただく前は、トイレの水は井戸からバケツで運んでいましたが、乾季に井戸が乾き、トイレに水がないこともあり、衛生的な環境を保つことができずにいました。今は給水タンクから十分に水が行き渡るようになったので、常時トイレに水があり、生徒達がトイレを積極的に使用するようになりました。日本の皆様、カンボジアをいつも支援していただいてありがとうございます。

初等科芸術教育支援事業

2022年-2023年　タケオ州におけるパイロット事業

2017 年から 2022 年に実施された JICA 草の根パートナー型「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」では、第一版の教科書、指導書の作成やトレーナーの育成等を行いました。事業は 2022 年 2 月に完了しましたが、コロナ感染拡大による学校閉鎖や行動制限等により、一部の事業が延期を余儀なくされていました。感染症の状況が落ち着いた 7 月に、パイロット事業地であるタケオ州にて、教科書の配付やモニタリングが再開された後、続いて 11 月には教員向け研修会の実施、2023 年 2 月には各小学校でのモニタリングが実施されました。

2023 年 4 月には、モニタリングの結果を受けて研修内容を考え、タケオ州の小学校を会場にフォローアップ研修を実施する予定です。ナショナルトレーナー*の研修指導力向上とタケオ州の小学校教員の授業指導力向上を目指します。

*プノンペン教員養成大学の芸術科教員。５か年事業で指導法トレーニングを受けている。

■ タケオ州の各小学校への教科書配付

感染症の拡大が収まった後、各小学校 4 校へ児童用教科書と教師用指導書の配布を行いました。配布時には、指導書や教科書の基本的な使用方法を説明し、質疑応答の時間も設けました。各学校で教科書を元に授業を実施してもらい、動画や写真でその様子を報告してもらいました。
この結果は第一版の教科書改訂に用いられます。

熱心に説明を聞くタケオ州の教員

■ タケオ州初等科芸術科教育指導法研修会

ヤシの葉で作品を作る参加者

タケオ州教育局にて美術・音楽それぞれ 4 日間の研修会を実施しました。4 校の小学校から各学年 1 名の教員と校長、郡や州の教育局職員が参加し、ナショナルトレーナーによる指導を受けました。感染症拡大前に 1 年生から 3 年生の学習内容についての研修は終了していたため、今回は 4 年生から 6 年生の学習内容について実施しました。

参加者は、ナショナルトレーナーによる模擬授業に児童役で参加したり、グループごとに指導案を作成し、代表者が模擬授業を行ったりと、とても積極的に参加していました。

プロジェクトの背景

カンボジアの音楽・美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、「社会科」の一部として位置づけられており、指導に充分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。授業を行っている数少ない学校においても、音楽の指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られています。美術においても、指導内容のほとんどは臨画（模写）です。子どもたちが音楽や美術を通した自己表現活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心の情操を育む機会は極めて少ないといわざるを得ません。

作品を作る参加者

グループで指導案を作成

鍵盤ハーモニカの指導

■ 鑑賞領域の研修会を実施

2023 年 1 月～ 2 月にかけ、3 日間の日程でナショナルトレーナー対象の鑑賞領域の指導法研修を実施しました。

1 日目は日本の指導法を児童役になって体験してもらい、2 日目は CCH の児童を前にカンボジアの題材で行う授業を参観してもらいました。3 日目はナショナルトレーナー 2 名が作成した指導案に基づき CCH にて授業実践をしました。

CCH で授業を行うナショナルトレーナー

■ タケオ州での授業モニタリング

2023 年 2 月に対象校 4 校の授業モニタリングを行いました。ナショナルトレーナー、教育省職員と共に、教員が第一版の教科書・指導書を使用して児童に指導する様子を参観し、そこで気づいたことを元に、改訂に向けた協議を行いました。

鍵盤ハーモニカの指導の様子

出来上がった作品を手にして

音楽・美術教育支援事業（フォローアップ事業）

■地域や学校に根づいた音楽・美術教育を目指して

これまでにカンポット・スバイリエン州で実施した美術教育支援パイロット事業、そして、プレイベン州のコンポントラバイク郡で実施した音楽教育パイロット支援事業。これらの対象地において、郡の教育局や対象校が、それぞれ自分たちの手で美術・音楽活動を継続していくために必要とされる支援を継続しています。また、指導者がいながらも、楽器の不足で音楽の授業の実施が難しい学校や教育機関などへの楽器寄贈も、幅広く行っています。

●美術　（カンポット州、スバイリエン州、プノンペン都）

【美術の授業の継続、自校開催の絵画展などを目的とした画材の寄贈】

カンポット・スバイリエン両州の 32 校における美術の授業の継続、ならびに自校開催の絵画展の実施を側面支援するために、画材の寄贈を実施しました。

カンポット州・スバイリエン州・プノンペン都での画材寄贈

【ミツバチの一枚画コンクール】

㈱山田養蜂場様が主催する当コンクール。第 10 回目となる今回は、プノンペンにある CCH（P14）とカンポット州、スバイリエン州の学校から子どもたちが参加し、計 4 名が海外部門で入選しました。

作品が入選したPhannavyさん

作品制作の様子

●音楽　（プレイベン州コンポントラバイク郡）

【音楽講習会および郡や対象校による音楽イベントの開催支援】

新型コロナウイルス感染拡大により、集会が制限されたことから、学校主催のイベント開催は見送られました。2023 年度は、コロナ禍での新たな活動の形を対象地域や学校と協議していく予定です。

●楽器寄贈

【地域や学校への楽器寄贈】

リクエストの届いた各州の教育機関への楽器寄贈を行いました。寄贈に際しては、器楽の指導を行える指導者がいること、具体的な指導計画と時間が確保されること、楽器の使用や管理の持続性が考慮されていることなどを確認しています。

楽器寄贈先の学校の様子

CCH・アート・プロジェクト

■ 自己表現活動を通した、青少年の健全な育成を目指して

本事業は、ローラ・ワールドスカラシップ基金の支援により 2015 年より実施しています。子どもたちが想像性や感性、創造力、表現力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的とし、様々な自己表現活動を実施しています。

■ アートクラブ

毎週金曜日をアートクラブの日として、美術や音楽に関わる様々な表現活動を行っています。
今年度は、参加した子どもたちに Nom Popok*さんが製造した栄養価の高いお菓子を提供しています。
月 1 回行われる栄養指導教室では、読み聞かせやゲームが行われ、子どもたちはとても楽しみにしています。

*NomPopok（会社）:カンボジアの抱える社会問題の一つである栄養不良の改善のため、お菓子を通して栄養や健康的な食生活について伝える取り組みを実施されています。

アートクラブの様子

お菓子を受け取り笑顔

NomPopok さん栄養指導の様子

■ CAP Festival 2023 の開催

2 月末に 3 年ぶりとなるフェスティバルを開催しました。来場者参加型のワークショップや、日頃の練習成果を発表したステージパフォーマンス、作品の展示等を行い、当日は多くの方にご来場いただき、子どもたちはとても嬉しそうでした。

ワークショップの様子

鍵盤ハーモニカの演奏

上級生によるソーラン節披露

教育支援（幸せの子どもの家）

支援者の皆さまへ
CCH所長（理事）メチ・ソカ

　CCHにご支援いただきました皆様をはじめ、小山内代表・JHP理事・職員の皆様に感謝申し上げます。
併せて、日本政府を通して日本の皆様からワクチンを部分的に提供していただいたことで、カンボジアの人々が新型コロナウイルスと貧困を乗り越えることができたことに感謝申し上げます。
　皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

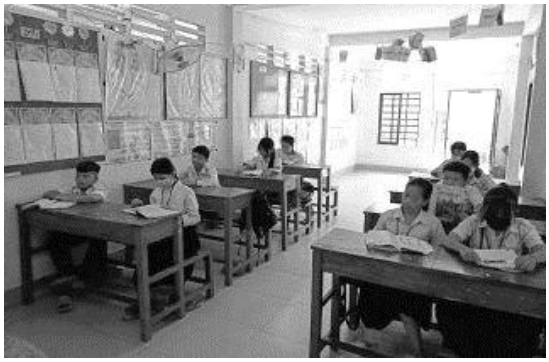
ワクチン接種を終えた子が休める簡易的な保健室

項目	男	女	計
小学生	5	3	8
中学生・高校生	6	6	12
ドンボスコ職業訓練校	2	0	2
大学生	0	2	2
貧しいコミュニティでサポートしている子ども	4	6	10

2023 年 3 月現在

PCトレーニングの様子

幸せの子どもの家に暮らす小学生



授業の様子

プロジェクトの背景

ポルポト時代に家族を失った経験を持つソカ氏の孤児院設立の構想に対して、2002 年に当会が施設を建設し、創設に携わった。贈呈式は 2002 年 11 月 30 日。主にゴミ山で生活していた孤児等を調査面接し、就学意欲のある 16 人の支援から開始した。CCH は Center for Children's Happiness の略称。日本語では「幸せの子どもの家」と呼ぶ。現在は貧しい家庭で育った子どもへの奨学金支援、住居や食料の提供等を行っている。カンボジアの NGO として正式に登録されており 2023年3月現在 20 人が在籍している。CCH 内で運営されている小学校には、CCH 内部の子ども８人の他に、外部の子ども 86 人を受け入れている。

週3回開講される料理教室の様子

CCH メイクアップ基礎習得プログラム

■2 人の生徒、支援によって力強く羽ばたく

CCH に在籍する子ども達の、メイクアップ技術習得を目的にした 1 年間の職業訓練を行いました。年長の生徒 2 名が、月に 1 度プノンペン市内の美容院に行き、美容技術を学ぶための研修を受けました。2 人は CCH に戻って、美容院で学んだスキルを、希望する 18 名の下級生たちに教えました。このプログラムは、大阪の有限会社スマイル様の全面的な支援によって実施されました。

トレーニングを受ける一人、スレイメイさんは 7 人家族。技術を身に着けて家計を助けたいと考えています。
CCH でも下級生の面倒をよく見ている優しいお姉さんです。

サロンで指導を受ける
（左オーナー、右スレイメイさん）

CCH で後輩に指導する
（右スレイメイさん）

後輩が友だちで練習する
（左と中は友達同士）

今回生徒を受け入れて頂いたオーナー。小さなヘアーサロンから初めて今では 2 件経営しています。
多くの講習生を受け入れ、メイクアップ技術を教えることで、貧しい子どもたちを支えています。

◇ 1 年かけて習得するはずが・・・

技術習得に 1 年を要するプログラムでしたが、二人はほぼ毎日サロンに通って技術を学びました。サロンオーナーもその熱心さを認めて指導を続けた結果、めきめき上達して、今ではお客さんからチップをもらえるほどの腕前になりました。そして、このたび二人ともスタッフ目指して研修生になりました。

CCH で先輩の指導を受ける下級生。将来の生計のために、メイクアップ技術は必要です。

サロンで活躍する 2 人（左スレイメイさん、右ソピアさん）

サロンのユニフォームを来た 2 人は、今ではサロンの大切な戦力になりました。付け睫毛、ネイルもお任せください。とくに、スレイメイさんは、ネイルの薄皮はがしは、プロ並みだそうです。

◇ プログラムを終えて、2 人にインタビュー

（SR＝スレイメイ、SP＝ソピア）

Q、サロンでの経験はどうでしたか？
A、シャンプーの仕方など、わかりやすく教えてくれました。SR
A、最初は怖かったけど優しく教えてくれたので、楽しめるようになりました。SP

Q、難しかったことは？
A、ずっと集中して行うので目が疲れました。SR
A、付け睫毛をたくさんつけるのが難しくて、3 時間かかりました。SP

Q、美容に興味を持っている CCH の子どもたちへのメッセージをお願いします。
A、最初は難しいと思うけど、意欲を持ち続けてください。SR
A、頑張ることです。まずは挑戦しないとできるようにはなりません。SP

1 年のプログラムを終えて、自信に満ちた姿でインタビューに答える 2 人。
ご支援を通して、未来に向かって大きな一歩を踏み出しました。
（左スレイメイさん、右ソピアさん）

成人識字教育事業

第 4 期の識字事業は 2022 年 9 月に開講し、現在 100 名の受講生が仕事と勉強を両立しながら合格を目指し、勉強を続けています。第 4 期識字クラスは 2023 年 4 月に修了予定です。

第 4 期　識字クラス概要

■開講場所：コンポンチャム州バティエ郡サンダエックコミューン内にある 4 村
（ストラン村、ポスタン村、コンパル村、タンチュレイ村）

■開講期間：8 カ月間

■開講日及び時間：月曜から土曜まで週 6 日（午後 6 時から 8 時まで）

■総生徒数：100 名（各村 25 名）　男性 23 名　女性 77 名

■現地カウンターパート：識字教員 4 名、スーパーバイザー1 名、アシスタントスーパーバイザー1 名

識字クラスの様子

識字クラスの様子

現地カウンターパートとミーティングの様子

スーパーバイザーへのインタビュー

名前：ニャム・ネット先生

私が識字クラスの担当を始めた 2012 年は、村内では約 40%以上の成人は読み・書きができず、助けを必要としていました。今は政府や NGO の取り組みにより改善されましたが、まだ助けが必要な人は存在します。私の村では、農家や家畜を飼って生計を立てている人が多く、文字の読み・書きができないと、働く場所も限られてしまいます。識字クラスを通して読み・書き・計算ができるようになると、建設現場で働くこともでき、また、お米の収穫時に使用する機械の使い方を理解できるようになります。効率的に収穫できることで、空いた時間に家族と一緒に過ごせたり、他の仕事もすることができるようになります。

生徒を見守るニャム・ネット先生

村の人々全員が読み・書き・計算ができるようになり、皆の生活が今よりさらに豊かで幸せになるように、これからもノンフォーマル教育に関わっていきたいと思います。

「事業の背景」に関しましては、P28　2-4　成人のための識字事業　事業の背景　をご参照ください。

災害救援 復興支援

■東日本大震災から１２年が経ちました

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北地方に壊滅的な被害をもたらしました。

JHP は、発生直後に宮城県南三陸町へボランティアを送り、町役場と協働してボランティアセンターを立ち上げたのち、被災された住民の方々の支援希望に合わせてお手伝いをしてまいりました。この間、現地にてボランティアに参加された皆様、ご寄付のご支援を頂きました皆様に感謝・お礼申し上げます。

破壊された街から希望の笑顔を取り戻せないかと、JHP 三島支部を中心に始まった「南三陸町 慰霊・復興祈念桜植樹プロジェクト」では、3.11 の教訓を忘れないよう、毎年その時期に開花する河津桜の植樹を続け、2022 年度で 15 回目を迎えました。昨年春には、総勢 23 名が宮城県南三陸町へ訪問し、被災により 103 名が犠牲となった津龍院にて、ご遺族 40 名を含む総勢 63 名で桜を植樹してきました。

被災地では、復興工事がまだまだ続いており、大切な家族を亡くされたご遺族は、3 月 11 日を迎えると、あの時に戻されたような気持ちで過ごしています。

津龍院住職の方からは、「プロジェクト参加者の皆さまとご遺族が、にこやかに植樹している姿を見て、今回のご支援が本当にありがたいものだったと心から感謝しております。鎮魂の桜ですが、この桜の木が成長し、春に咲かせる花を見るたびに、ご遺族の心の癒しになると思います。」との言葉をいただきました。

これまでに植樹した桜は累計 1900 本にのぼります。心を込めて植樹した桜の木が、南三陸の復興の象徴となっていくことを願ってやみません。

この桜植樹活動は、2022 年を持って区切りとし、今年以降は桜の木のメンテナンス活動を中心に行うこととなりました。今後も JHP は被災地に寄り添える活動を続けていきたいと思います。

■コロナ禍の食支援“お米一合運動”を継続してきました

2019 年からの新型コロナウイルス感染拡大により、人々の生活は大きく変化しました。特に、ひとり親世帯や学生アルバイトの方々を中心に、雇用止めによる失業や、営業時間短縮に伴う収入減で、生活に困窮する事態が増えておりました。

せめて国民の主食である、お米だけでも切らさないようにと、JHP は、地域の社会福祉協議会と協働して「お米一合運動」に参加してきました。

この趣旨にご賛同頂いた方々から、多くのご支援を頂き“フードバンクかながわ”を通じて、お米を必要とされている方々へお届けしました。

2021 年 3 月から始めた「お米一合運動」は、2023 年 3 月末までに、個人・団体を含め、お米現物 3,550kg、支援金総額 1,450,540 円、参加者延べ 356 名と、多くの皆さまからご賛同いただきました。

お米を受け取った、ひとり親世帯のお母さんからは、「子どもたちの主食の心配がなくなりました。ありがとうございます」との感謝の声が寄せられています。ご賛同頂いた皆様にお礼申し上げます。

広報活動

7/30　髙木凜々子チャリティーコンサート開催

浜離宮朝日ホール

これまで 16 回の回数を重ねてまいりました「天満敦子チャリティーコンサート」は、天満さんが体調を崩されたため、ご出演が叶わず、中止せざるを得ないかと思われましたが、せっかくの交流の場を無為にしたくないという思いから、代わり得る方をお願いできないか探しておりましたところ、ご縁あって、将来を嘱望される若手ホープのヴァイオリニスト・髙木凜々子さん、ピアニスト・五十嵐薫子さんにご出演をご快諾いただき、「髙木凜々子チャリティーコンサート」として開催することができました。

当日は、クラッシックから日本の曲までを含む 14 曲の、お 2 人の息の合った演奏のほか、「子ども達に本物の音楽の楽しさを届けたい」という想いで小学校を訪問し、クラシック演奏活動を長く続けていらっしゃる髙木さんの想いをお話いただく場もありました。

長年、当コンサートへご来場下さっている方はもちろん、このコンサートをきっかけに、JHP の活動を初めて知って下さる方も多くいらっしゃり、「素晴らしい演奏を聞けて、チャリティー支援にも参加できて良かった」とのお声もいただきました。

ご報告	入場料・募金	1,258,000 円
	支出合計	1,076,534 円
	チャリティー額	181,466 円

次回は２０２３年７月２９日（土）に、同じく浜離宮朝日ホールでの開催を予定しています。

諸活動を認知いただく取り組み

活動名	主な内容・実績
JHPニュース発行	○年 2 回発行。部数1,800部。 ○カラー印刷、透明封筒の活用を継続。 ▶データーのPDF送信数は63件（‘23/ 3 下旬現在）
ホームページ運営	○JHPの諸活動や体制に変更・新設や、イベント等のお知らせ情報が生じる都度、作業を実施。
メールマガジン	○年21回発行。閲覧者1,114人（‘23/ 3 下旬現在）
SNSの活用	○メールマガジン未登録の方への情報提供や、会の日常的な話題の紹介、イベント当日の話題提供としてFacebookとTwitterを活用した。 ▶FaceBookフォロアー：995人（‘23/ 3 下旬現在） ▶Twitterフォロアー：399人（‘23/ 3 下旬現在）
講演・講義・説明会等	○役職員が年2回実施、延べ24名が参加した。
来訪者受け入れ	○プノンペン事務所が31名を対応した。
カレンダー販売	○567部（壁掛け型:283部・卓上型:284部）を販売した。

イベント出展

コロナ禍でありましたが、今年度はオンラインではなく、リアル会場でのイベントも再開され、当会は年間３回参加しました。

各イベントでは、JHP の活動紹介と各種事業の紹介資料の配布を行い、１人でも多くの方にカンボジア・ネパールの教育状況について知ってもらい、支援の輪を広げることに努めました。

また、教育支援の資金を集めるために、カンボジア・ネパールの民芸品・チャリティーカレンダー販売を行いました。各イベントには、JHP会員の方もご来場下さり、楽しみながら実施することができました。

JHP 活動紹介

JHPの活動内容や、カンボジアやネパールの教育事情について紹介し、国際協力や国際支援をともに考える機会として、活動紹介オリエンテーションを実施しました。

主に学校や団体などの要望を受け、合計２回の開催で24名の参加がありました。

例年、中学・高等学校の社会科学習や修学旅行の一環として学生さんの訪問受入れを行っておりましたが、コロナ禍の影響を受け、今年度は３年振りの訪問受入れとなりました。

参加された方々からは、カンボジア・ネパールの教育事情を知り、日本の当たり前とは違う環境に驚いたという声や、同じ地球上の仲間として具体的に「自分にできること」を考えたい、といった感想の声がありました。

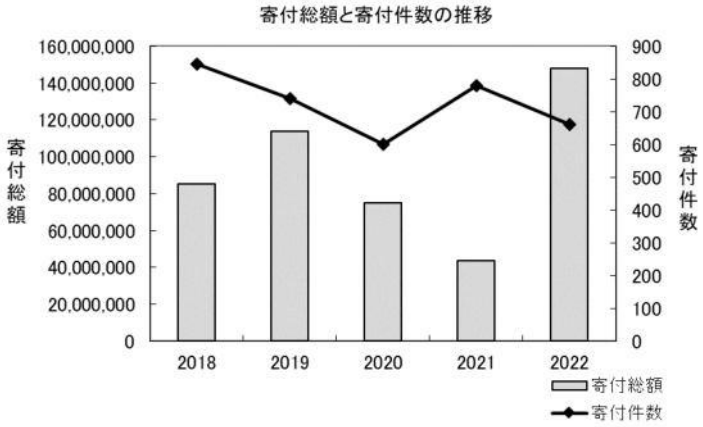
組織運営

会員数　378人(2023年3月現在)

	正会員	賛助会員
一般	248	112
特別	7	7
学生	2	2

前年比111人減　　新規会員3人

寄付金 661 件　147,891,440 円



皆様からの各種ご寄付・寄贈

●お宝エイド　今年度実績：30,906円

皆様のご家庭や会社で眠っている品々が、カンボジア・ネパールの教育支援になる新しい寄付の仕組みです。お宝エイドのご協力により、10%をめどに上乗された金額が、JHP・学校をつくる会への寄付となります。

●スカイウィッシュチャリティプログラム

デルタ航空のマイレージプログラムより、JHPへマイレージをご寄付いただけます。個人の方はもちろん、修学旅行など学校単位でのご寄付の輪も広がっています。

今年度実績	
受領マイル	約45万マイル
利用マイル	503,500マイル
年度末残数	約3,120万マイル

●寄付サイト

3つのサイトより162,741円を受けました。

●クレジットカード

利用数：105件（780,950円）

●募金型自販機

37,935円

■「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」に採択されました

この度 JHP は、パナソニックホールディングス株式会社が実施する、『Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs』に採択されました。

このファンドは、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて活動に取り組むNPO/NGO が、持続発展的に社会変革に取り組めるよう、組織課題を明らかにする組織診断や、具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化の取り組みに助成しています。

2022 年募集事業には、58 団体から応募があり、「海外助成」7 団体、「国内助成」9 団体、合計 16 団体・助成総額 2,521 万円が助成対象事業として選ばれました。当会は**「活動の持続性に向けて財政基盤強化・自己資金拡充のための組織診断」**を目的として申請し、外部専門委員会の選考やヒアリングを経て、海外助成として採択されました。8 か月の活動に 1,000,000 円が助成されます。今年 30 周年を迎える当会は、本助成を通じて、海外の学びたい子ども達への持続的な教育支援活動を実現していくべく、組織基盤の強化に励んでいきたいと思います。

各種会議の報告

会議内容	2022年度の主な内容・実績
会員総会	2022年6月25日（土）開催。 出席者111名（委任状含む）。 2021年度事業及び決算報告、 2022年度計画及び予算報告を行った。
理事会	第147回～150回まで4回実施。
運営協議会	理事と事務局の情報共有、理事会審議事項の協議・検討の場として9回実施。
定例ミーティング	東京事務所（逐次） プノンペン事務所（週1回）実施した。

助成金・実施実績

今年度は、下記の助成金を申請し、採択されました。

名称	対象事業
連合「愛のカンパ」	成人識字教育事業
歳末助け合い運動による地域福祉助成	組織運営
「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」	組織運営
（公財）東京しごと財団 テレワーク助成金	組織運営
(一社)MDRT日本会 クオリティ・オブ・ライフグラント	広報事業

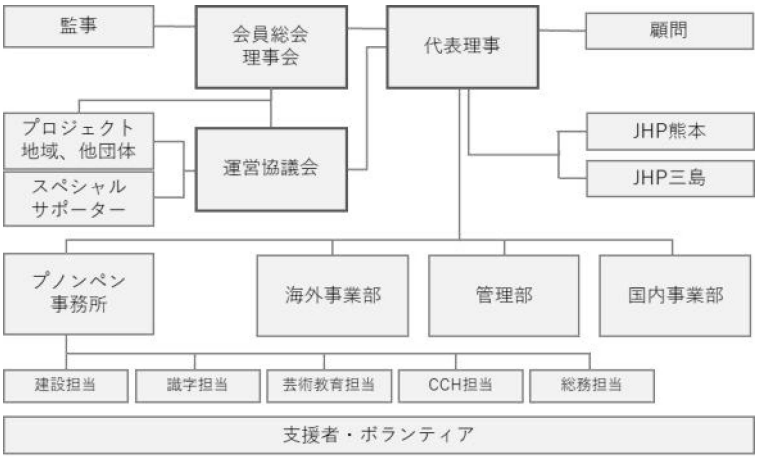
過去開催の楽器清掃ボランティアの様子

■ボランティア受け入れ

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京事務所では、ボランティアの受け入れが難しい状況が続きました。しかしながら、これまでに「カンボジアへ送る鍵盤ハーモニカの楽器清掃ボランティア」にご協力いただいた皆さまの想いを届けようと、「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」様のご協力をいただき、本年度も、無事にカンボジアへ鍵盤ハーモニカ20箱、241台を送ることができました。

運営体制（2023.4 現在）

◎JHP 組織図



◎役員

代表理事	小山内美江子
理事	佐伯蘭子、山岡修一、佐谷隆一
	吉岡健治、青野達司、脇田知子
	伊藤多栄子、中込祥高、矢加部咲
監事	髙橋久
顧問	岩本宗孝

◎東京事務所

区分	2021年4月	2022年4月	2023年4月
常勤役員（定勤役員）	3名	3名	3名
職員	1名	3名	3名
職員（契約）	1名	0名	0名
パートタイマー	3名	2名	2名
ボランティア（定期）	1名	1名	1名

※2020年4月より常勤役員は定勤役員に変更

◎プノンペン事務所

区分	2021年4月	2022年4月	2023年4月
職員（日本人）	3名	4名	2名
職員（ローカル）	7名	5名	5名
専門家（ローカル）	1名	1名	1名

JHP行動基準

私たちは、地球的視野を持って活動します。
＊開発途上国の人々と同じ目線で学びあいます。
＊より多くの人に新しい経験や自己研鑽の機会を提供します。
＊諸外国と日本を結ぶ架け橋（国際交流）の役割を担います。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の自立を支援します。
＊主な支援対象である「子ども」に対して、ハード、ソフトの面から一人ひとりの未来を支えます。
＊国内外の災害救援時に被災者の自立を支えます。

私たちは、「できることからはじめよう」を実践します。
＊人を活かし、一人ひとりの個性や能力が発揮できる組織を目指します。

私たちは、活動に関わる全ての人々がお互いに理解し合える関係を築きます。
＊プロジェクトを成功させるために、支援に携わる人、支援を受ける人と良好な関係を築きます。

私たちは、常に現場のニーズに基づき活動します。
＊現場のニーズが活動の原点であり、その状況を直接調査し、見極めた上で事業を立案し活動します。
＊現場の人々と直接交り、汗を流し、助け合い、学びあいながら活動を進めます。

私たちは、皆さまからのご浄財を責任を持って効果的に活用します。
＊支援者の思いに応え、報告や連絡を丁寧に行い、信頼関係を構築します。

私たちは、活動を進めるにあたり危機管理を徹底します。
＊役職員、ボランティアの安全（危険予知と防止）と衛生管理を徹底し、活動環境を整備し、事故なく活動を継続させます。

私たちは、以上の行動基準について、ヒューマンパワーを結集させて実行すると共に、時代時代に適した内容であるかを定期的に見直し、改定していきます。

制定日：平成25年1月11日

JHP・学校をつくる会　代表理事　小山内美江子

アカウンタビリティ・セルフチェック（ASC）への取り組み

Accountability Self-Check 2012

2016年3月25日、当会は国際協力NGOセンター（JANIC）が普及の中心となるASC2012にチャレンジし、必須項目は33のうち32、強化項目は8のうち6項目をクリアし、2010年2月に実施したときよりも6項目多くクリアすることができました。左のマークはJANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）についてJHPが適切に自己審査したことを示しています。
今年度もASC2012の全項目クリアに向けて組織力の強化を進めます。

認定NPO法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER
〒108-0014　東京都港区芝5-14-2 鈴木ビル2F
TEL 03-6435-0812　FAX 03-6435-0813
E-Mail tokyo-office@jhp.or.jp　ホームページ：www.jhp.or.jp
Twitter：@JHP _ tokyo　Facebook：JHP・学校をつくる会
本書の印刷は株式会社プロネクサス様にご協力頂きました。